

浅間山の 生い立ち

浅間山は10万年前から何度も噴火をくりかえしてきた活火山です。



- 1 約10万年～2万年前: 浅間山の前身である高直火山が成長を続けていました。この火山は富士山に似た形で、標高は2,800メートル以上あったと推定されています。
- 2 約2万年前: 水蒸気爆発によって山体が崩壊し、土石なだれが山麓に堆積しました。この時発生した泥流は、中之条や前橋付近でも厚く堆積しました。
- 3 約2万年～1万7千年前: 山体崩壊により高直形のカルデラが形成され、その中に仏前火山が形成されました。小笠原山がつくられたのもこの時代です。
- 4 約1万7千年～1万1千年前: 火砕流が何度も起き、とくに1万4千年前と1万1千年前の噴火では大規模な火砕流が発生し、南北両方向に30メートル以上の厚さで堆積しました。
- 5 約1万年～9000年前: 仏前火山の上から溶岩流や火砕流、火山灰が繰り返し噴出して、新しい山体である新山が形成されました。
- 6 西暦1108(天仁元)年: 大規模な噴火が起こり、噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流などが噴出しました。
- 7 西暦1783(天明3)年: 大規模な噴火で噴石、火山灰、噴石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押し溶岩流などが発生し、大災害になりました。

歴史時代の主な噴火災害

昔の記録に残っている浅間山の噴火災害のうちとくに被害が大きかったものを紹介します

天明の噴火

天明の噴火は、1783(天明3)年5月9日[※]に始まってから、噴火したり収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなっていきました。7月27日[※]頃から噴火が連続するようになり、8月4日から5日[※]にかけて、最も激しい噴火が起こりました。

発生した現象	・火山灰 ・噴石 ・香掛火砕流 ・鎌原土石なだれ ・天明泥流 ・香掛泥流 ・鬼押し溶岩流
主な被災地域	・山麓の鎌原集落 ・吾妻川沿いの地域 ・軽井沢町(当時の軽井沢藩)
死者	・1400名以上
倒壊家屋	・1000棟以上



天明の噴火時に吾妻川沿いに流れた火山泥流(浅間山権吾妻川附村々絵図(藤原道氏氏模写))



天明泥流の流下範囲
1783(天明3)年の噴火で発生した泥流の流下範囲を示しています。
天明泥流が発生の原因になった「鎌原土石なだれ」の流下範囲を示しています。



天明の噴火
鎌原土石なだれ
天明泥流
香掛火砕流
鬼押し溶岩流
香掛泥流

天仁の噴火

1108(天仁元)年にも、浅間山は大噴火を起こしました。古い時代のことなので天明の噴火ほどの記録は残っていませんが、中御門右大臣藤原宗忠の書いた「中右記」に噴火のときの様子が記されています。

発生した現象	・火山灰(前橋で20センチメートル以上の厚さに積もりました) ・噴石 ・追分火砕流(約80平方キロメートル以上を覆いました) ・舞台溶岩流 [火山噴出物の量は天明の噴火の2倍以上]
--------	--



天明の噴火時に高温の軽石や火山灰から逃げまどう人々(浅間山権吾妻川附村々絵図(藤原道氏氏模写))

「国内に麻閉峯という高山がある。治暦年間に煙を噴いたが、その後しばらく収まっていた。天仁元年七月二十一日に忽然と噴火を始め、煙は天まで登り、砂塵は国内に降りそそぎ、国内の田畑は全滅してしまった。一国の被害でこれほどひどい例は未だかつてない。稀な不思議の事件なので記し置くものである。」
『中右記』の現代語訳



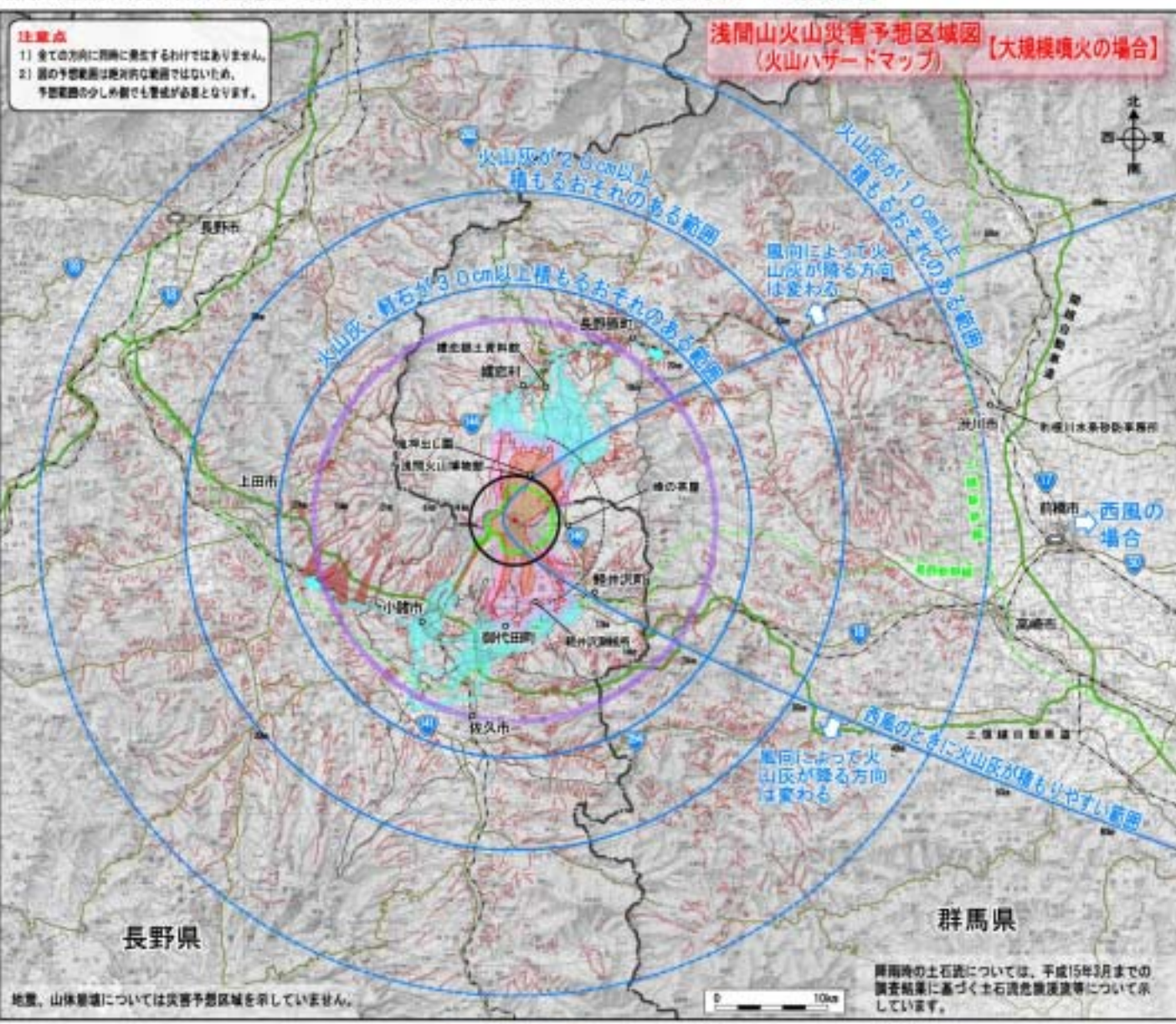
舞台溶岩流の上に、鬼押し溶岩流の一部が見られます。(大里孝雄氏撮影)



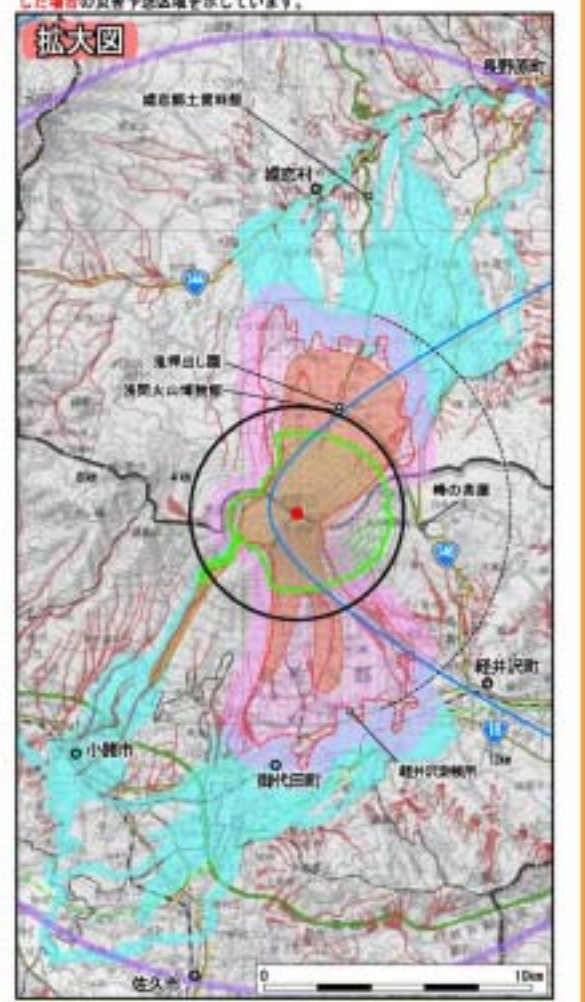
天仁の噴火
追分火砕流
舞台溶岩流

もしも天明の噴火のような大噴火がおきたら...

浅間山は過去2千年間に3回の大噴火を起こしました。たくさんの方を助けた「天明の噴火」もそのうちのひとつにあたります。



この図に示す2枚の予想図は、天明の噴火と同じような大規模な噴火が、浅間山の山頂火口から北側(新高集落)あるいは南側(長野集落)に向かって発生した場合の災害予想区域を示しています。



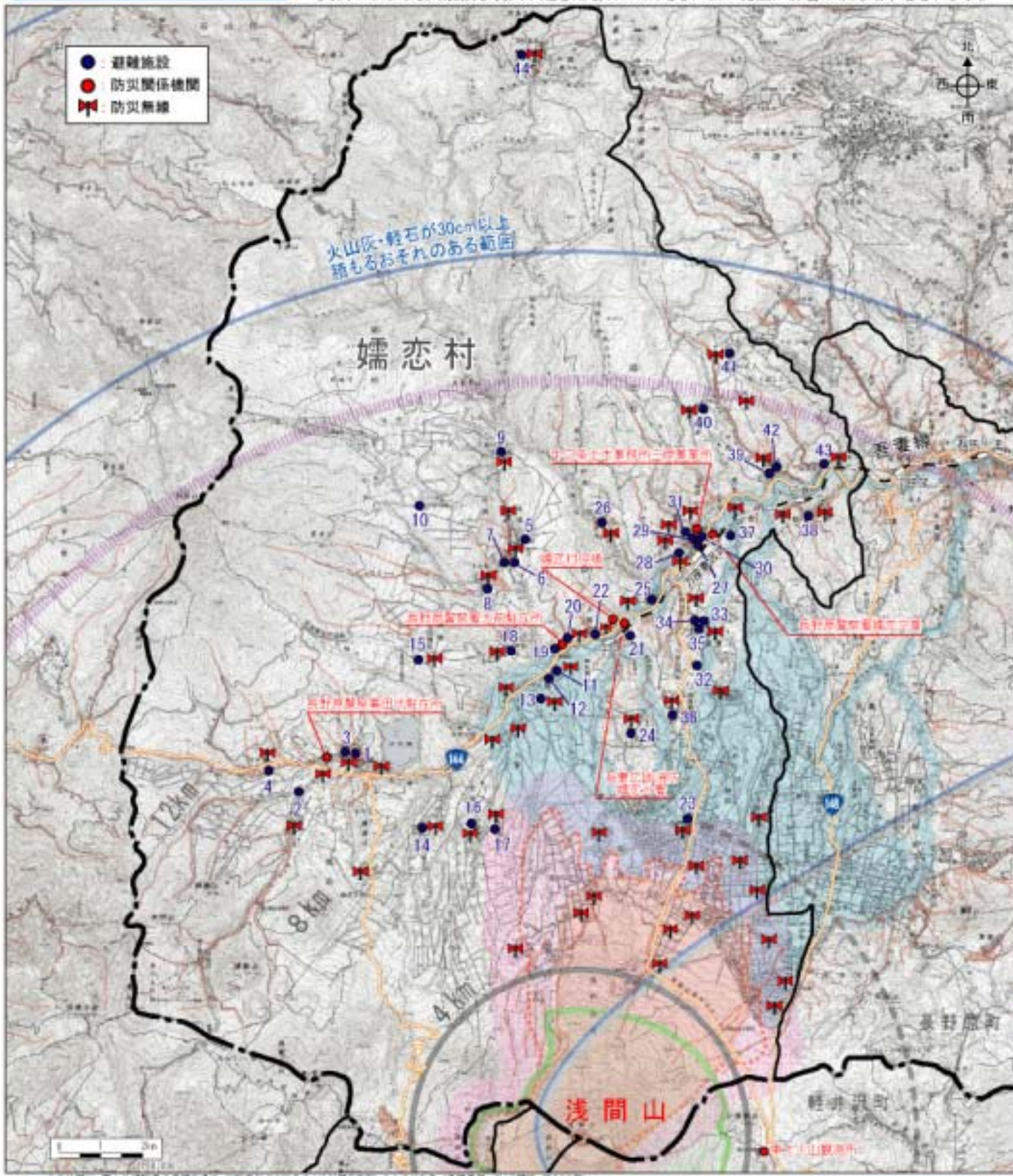
浅間山では、天明の噴火よりも大きな規模の噴火がおこることもあります。例えば、天仁の噴火は天明の噴火の2倍以上の規模でした。もしも、天仁の噴火のような大規模な噴火が起きた場合には、左の図に示したよりもさらに広い範囲に火砕流や融雪型火山泥流の被害がおよぶと予想されます。

記号の色と意味	想定火口	火山ガス	噴石	空振	火山灰(降灰)	降雨時の土石流	火砕流と熱風	融雪型火山泥流	溶岩流
	浅間山の山頂火口を想定しています。	高温のガスが溜まりやすい予想範囲です。	実線: こぶしより大きい噴石が飛んでくる予想範囲です(半径4km)。破線: 風下側で小石が飛んでくる予想範囲です(半径8km)。	空振による被害を受ける予想範囲です(半径18km)。	火山灰が積もる予想範囲です。大規模噴火の時は軽石も混ざって降ります。	降雨時の土石流の流下予想範囲です。	火砕流と熱風の流下予想範囲です。	積雪期の融雪型火山泥流の流下予想範囲です。	溶岩流の流下予想範囲です。

避難施設

避難の際には、村役場からの指示に従って行動してください。避難が必要になった時には、防災行政無線などで村役場から噴火の被害を受けにくい避難施設が指定されます。

下に示した噴火の影響範囲は、天明の噴火と同規模の噴火が発生したときの予想範囲です。なお、これよりも大規模な噴火が起きた場合には、さらに広い範囲に影響が及ぶと予想されます。



避難に関する問い合わせ先

孺恋村役場 電話 0279-96-0511

地区別の避難施設一覧

地区	番号	施設名	所在地	電話
田代	1	田代小学校	田代438	96-0042
	2	田代の集居	田代501	96-0243
	3	田代コミュニティセンター	田代433-3	96-0077
	4	志木津集居センター	田代501-1	96-0272
千保	5	千保小学校	千保313	96-0454
	6	千保の集居	千保326	96-0331
	7	千保生活改善センター	千保305	96-1770
	8	上ノ月生活改善センター	千保 甲68	96-1953
	9	仁田川集居センター	千保2437-171	96-1954
	10	八ノ子地区住民センター	千保2431	96-1150
大庄	11	西中学校	大庄1054-2	96-0020
	12	大庄の集居	大庄116-1	96-1032
	13	大庄公民館	大庄120-1	96-1071
	14	大庄集居センター	大庄246-070	96-1057
	15	北山住民センター	大庄179-078	96-1090
	16	中津集居センター	大庄240	96-1327
	17	山崎集居センター	大庄2039	96-1059
	18	西小学校	大庄 甲305	96-0013
大前	19	大前の集居	大前782	96-1027
	20	大前集居センター	大前1030	96-1081
	21	大前生活センター	大前395-1	96-0946
	22	大前生活センター	大前2279-4	-
	23	大前生活センター	大前146-1	96-1323
	24	大前生活センター	大前430-1	96-1100
西庄	25	西庄生活改善センター	西庄430-1	96-1100
	26	西庄生活改善センター	西庄430-1	96-1100
	27	西庄生活改善センター	西庄430-1	96-1100
三原	28	三原小学校	三原691	97-0026
	29	三原の集居	三原246	97-0215
	30	三原集居センター	三原074-1	97-0170
	31	三原生活センター	三原691	97-0004
	32	三原生活センター	三原502-1	97-0106
鎌原	33	鎌原小学校	鎌原128	97-0006
	34	鎌原の集居	鎌原288	97-0144
	35	鎌原生活センター	鎌原432-2	97-0142
新庄田	36	新庄田生活改善センター	新庄田400-2	-
	37	新庄田生活改善センター	新庄田400-2	97-1320
岩倉	38	岩倉生活改善センター	岩倉732-3	97-1100
	39	岩倉生活改善センター	岩倉812	-
今井	40	今井生活センター	今井130-1	97-0118
	41	今井生活センター	今井1082	97-0067
	42	今井生活センター	今井130-1	97-0140
	43	今井生活センター	今井240-3	97-0100
万原	44	万原生活センター	万原431	-

※観光客、到着滞りの方へ
避難を必要とするような大規模な噴火は、事前の兆候があると考えられています。そのような情報はテレビやラジオから取得できます。村でも防災無線や行政無線によってお知らせいたします。その場合は落ち着いて、村内の避難所ではなく安全な自宅へお帰りのびたい。

防災関係機関連絡先

種別	機関名	電話
消防	消防本部	0279-96-0511
	消防団	0279-96-1190
警察	警察本部	0279-96-0511
	警察署	0279-96-0110
	警察分署	0279-97-3025
火山観測	気象庁	0279-96-0116
	気象庁	0279-96-0126
ライフライン	電力会社	0279-96-0511
	ガス会社	112
その他	消防本部	0279-96-0511
	消防団	0279-97-3025

記号の色と意味

- 想定火山口**: 浅間山の山頂火口を想定しています。
- 火山ガス**: 高温のガスが降り注いで予想範囲です。
- 噴石**: 噴石が落ちてくる予想範囲です(半径4km)。噴石: 落下時に石が落ちてくる予想範囲です(半径4km)。
- 空振**: 空振による被害を受ける予想範囲です。(半径10km)
- 火山灰(降灰)**: 火山灰が降る予想範囲です。大規模な噴火では降灰も想定されます。
- 降雨時の土石流**: 降雨時の土石流の発生予想範囲です。
- 火砕流と熱風**: 火砕流と熱風の発生予想範囲です。
- 融雪型火山泥流**: 融雪型の火山泥流の発生予想範囲です。
- 溶岩流**: 溶岩流の発生予想範囲です。

普段から災害に備えて

浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのかこの「浅間山火山防災マップ」で知っておきましょう。

普段から非常持ち出し品を備えておきましょう。

地震に備えて家具の固定や壁の補強をしておきましょう。

避難する場合は...

①あわてず落ち着いて行動する。
②戸締り、電気、ガスの元栓を確認する。
③貴重品を忘れずに持つ。
④市街地では車を使わず歩いて避難する。
⑤お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。

避難の格好

- ヘルメット
- ゴーグル
- マスク
- リュックサック
- 手ぶくろ
- 運動くつ
- 長袖の上服
- 長ズボン

もし噴火がはじまったら?

気象庁が発表する「火山情報」に注意しましょう。

村長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

防災火山情報がでたら、その後のニュースや自治体の情報に注意しましょう。

緊急火山情報がでたら、いつでも避難できる準備をしましょう。

避難のときの持ち出し品

噴火が長引くと、避難先で何日も暮らすことも考えられます。大切なものはすぐに持ち出せるよう、心がけておきましょう。

特に火山噴火の際に必要となるもの

- ヘルメット(防災ずきん) → 噴石や落下物から頭を守る。
- マスク → 細かい火山灰を吸い込むのを防ぐ。
- ゴーグル → 細かい火山灰から目を守る。

主な持ち出し品リスト

必要なものにしるしをつけて、普段から備えておきましょう。

- 着替え、下着類
- 洗面用品、衛生用品
- 手ぶくろ・軍手
- かき、カッパ
- リュックサック
- 毛布・タオル
- 非常食、嗜好品
- 懐中電灯と電池
- 携帯ラジオ、テレビ、電池
- 現金、小銭
- シート、ビニール袋
- ガムテープ(粘着テープ)
- 腕時計
- 通帳、カード、印鑑、証券など
- 健康保険証
- 携帯電話(充電器など)
- ライター
- ちり紙、ティッシュペーパー
- ほ乳ビン、ミルク、おむつ、母子手帳(赤ちゃんがいる場合)
- お年寄り用常備薬など(お年寄りがいる場合)
- 常備薬、救急箱
- その他個人的な貴重品

(おむつやオムツパッド、手袋のメッシュパックの裏面など、お年寄りの場合)

災害用伝言ダイヤル(171)

災害時の伝言ダイヤル(171)は、NTT「災害用伝言ダイヤル」が提供されています。

携帯電話で171にかけると、自動アナウンスに繋がって簡単に伝言を残すことができます。